



日刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 { (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

93.9.20 No. 3859

「新たな10万人首切り攻撃」との対決へ!

第20回定期大会に総集よ!

動労千葉第二〇回定期大会が、今週末の二五〜二六日、千葉県いこいの里「笠森保養センター」で開催される。全組合員は、この一年間の闘いの成果と、職場生産点におけるさまざまな諸問題を持ち寄り、討議し、方向性を定め、当面する最大の闘いとなる、東日本「一二・一ダイ改」闘争、貨物「九四・Xダイ改」闘争へ向けて、組織の総力を上げて闘い抜く方針を決定しようではないか!

「人減らしのための人減らし」

攻撃を断じて許すな!

「分割・民営化」の破綻を前に、JR当局は、「東日本鉄道部門五万人体制」攻撃、「貨物八千人体制」攻撃と、「第二の分割・民営化」とも言うべき攻撃を開始しています。これはまさに「新たな10万人首切り攻撃」に他なりません。それは、今後一〇年間の内に、現在のJR労働者の半数以上が、「原則出向」とされている五五才に達すること。一方では高齢者には出向・勧奨退職を強要し、職場にはその発生する数だけの労働強化・合理化を強行する。「人減らしのための人減らし」なのです。

この「新たな10万人首切り攻撃」の当面する最大の焦点こそ、「時短」とセットになった東日本「一二・一ダイ改」であり、貨物での動乗勤改善攻撃、基地統廃合攻撃です。今次「ダイ改」が、今後の合理化攻撃の突破口としての位置を持っていることを、われわれは肝に命じなければなりません。

サンフレッチェの闘いを

さらに推し進めよう!

そして「JR体制」との最大の組織的対立点・攻防点となっている、強制配転者の原職復帰を、この闘いの過程

を通して結合させ、道筋を確固たるものとしなければなりません。

全組合員は、第二〇回定期大会に総集しよう! 運転・営業・貨物のサンフレッチェ(三本の矢)の闘いをさらに推し進めよう!

着実に前進している

闘う労働者の連帯の輪

九・一四反弾圧集会―戦闘的デモを貫徹

九・一四反弾圧集会は、おりからの大雨をついて、例年の結集を上回り、参加団体も着実に拡大を勝ちとるなかで、圧倒的に勝ちとられた。

会場の入口では、先だって、検問弾劾の中で不当逮捕され、裁判で勝利を勝ちとった内藤隆弁護士を先頭に「検問粉砕闘争」が闘われ、参加者に一指も触れさせないというかつてない地平での闘争となり、いやがうえにも集会のボルテージは上がった。

デモも終始戦闘的に闘われ、随所で機動隊の妨害を蹴散らし、「弾圧粉砕」闘う労働運動の形成を訴えてきたところだ。

動労千葉も青年部を中心に結集し、佐藤青年部長が、今秋季・小選挙区制粉砕闘争への決起を訴え、全体が拍手でそれを確認した。弾圧を恐れず、弾圧を粉砕し、闘う新たな潮流の形成に向けて闘うことを確認し、この日の闘争を終了した。

第二〇回動労千葉定期大会

日時 九月二五日(土) 一三時〜二六日(日) 一二時

場所 千葉県いこいの里・笠森保養センター

「一二・一ダイ改」阻止闘争へ

※大会終了後、九三年冬季物販担当者会議を開催!